

仮定法 指導案

実力を伸ばすクラス

偏差値のめやす 50～60程度

2コマ＋帯活動／論理・表現Ⅱ（高2・2学期）／英語コミュニケーションⅡと連動

単元の目標

仮定法過去・過去完了・I wish を場面に応じて使い分け、自分の考えを60語程度でまとまりよく書ける。ペアの問いに1往復以上で応じられる。

評価規準 この帯で、この単元をどう見取るか

知識・技能	仮定法過去・仮定法過去完了・I wish の形と意味の違いを理解し、場面に応じて使い分けて書く技能を身に付けている。
思考・判断・表現	「学校生活を1つ変えられるなら」について、仮定法を用いて理由とともに60語程度（50語以上）で書いている。
主体的に学習に取り組む態度	書いた英文を読み合い、相手の表現の良い点を指摘したり、自分の文を書き直したりしようとしている。

思考・判断・表現は表現ワークの60語作文を加点式ルーブリックで見取ります（仮定法2文以上＋流れ＋自分にしか書けない具体＋語数）。減点式にすると、安全な短文しか書かなくなり、この帯の伸びしろを自分で潰すことになります。

単元計画 全2コマ＋帯活動

時	ねらい	主な学習活動	使う教材
1	4つの型を通し、形を自動化する	見取り図30分（気づき→整理→確認）→定着ドリル（標準）大問1～3	見取り図（実力）／定着ドリル（標準）
2	書く・話すへつなぐ（本時）	ドリル大問4（和文英訳）→表現ワーク（標準）：型で書く→ペアQ&A→60語の自由英作	定着ドリル（標準）／表現ワーク（標準）
帯	定着の確認	10分小テスト（標準）。ペアQ&Aの What would you do ...? はパフォーマンステストの課題に転用できる	10分小テスト（標準）

教材 この指導案で使う紙（どの版を・どこで）

見取り図プリント（実力）	1時間目。高校範囲の4つの型を通す
定着ドリル（標準）	1時間目に大問1～3、本時の冒頭に大問4
表現ワーク（標準）	本時の中心。ペアQ&A→60語作文→相互の読み合い
10分小テスト（標準）	次週アタマの帯活動
定着ドリル（発展）	伸ばす場面で。大問3「どちらも正解」は全体での検討に向く

仮定法 指導案 | 本時の展開

本時 2時間目／全2時間 本時の目標：仮定法を使って、自分の考えを理由とともに60語で書く。

時間	学習活動（生徒）	指導上の留意点・評価
8分	定着ドリル（標準）大問4の和文英訳を3問、個人で解いて答え合わせ	複数解を板書で並べる（could／would の違い）。「どちらも正解」を先に体験させる【知識・技能／記録に残さず指導に生かす】
7分	表現ワーク（標準）のモデル3文を音読し、型を確認する	モデルは内容ではなく 形の骨組み を見るよう指示する（真似すべきは構成）
10分	ペアQ&A—4問を交代で。答えに Really? Why? を1回は返す	1往復で終わらせない。教師は「もう1問返して」と声をかけて回る
20分	「If I could change one thing about my school life, ...」を60語前後で書く	書き出しの3分は辞書を禁止。日本語で下書きをせず、英語で書き始めさせる【思考・判断・表現】
5分	ペアで交換し、相手の文でいちばん良い1文に下線を引いて返す→返ってきた文を1か所だけ書き直して提出する	誤りの指摘はさせない。良い1文を選ぶ目を先に育てる。書き直しの跡が【主体的に学習に取り組む態度】の見取り（提出時に回収）

板書計画 左から順に残す

1. （左）4つの型の一覧（見取り図の整理表と同じ並び。生徒が顔を上げれば確認できる位置に）
2. （中）和文英訳の複数解を並べる欄—could=できる／would=するのに
3. （右）60語作文の3段構成：①変えること ②どうなるか ③理由・本音

つまずき この帯で必ず出るものと、その場の手立て

見取り（こう出る）	手立て（こう返す）
「もし」＝仮定法と機械的に処理し、直説法の文まで would にする	ドリル大問1(2)（あしたの天気）に戻す。この帯でいちばん多い誤りなので、扱う場面を最初から予定に入れておく
if 節だけ直して、帰結の側を直し忘れる（would have＋過去分詞にしない）	「文は2つでワンセット」と板書。答え合わせでは必ず両側を読み上げさせる
60語が書けず、20語で止まる	③の理由を「なぜそう思うようになったか」の具体的な出来事に置き換えさせる。語数は具体で埋まる
書けるが、内容が一般論で終わる	ループリックの「自分にしか書けない具体」を指さす。加点だと分かると書き足しにいく

この帯の勘どころ この帯の勘どころは直説法との対比を落とさないこと。もう1つは、書く時間を20分確保することです。10分に削ると、書ける生徒しか書けない授業になります。ペアQ&Aの問いは、そのままパフォーマンステスト（やり取り）の課題文に使えます。

